

<教材>

単元：

高校>国語（言語文化）>第1学年>東京書籍 新編言語文化>古文編>4章 物語>伊勢物語>筒井筒

タイトル：

古文に共感を持たせる指導の工夫
～登場人物の心情、作品が描き出す情景を自分自身と重ねる～

キーワード：(5個以内)

筒井筒、和歌、恋、登場人物の心情、共感

0-1. 単元目標

単元目標： （単元終了後に目指す子供の姿）	和歌によって物語が展開する「歌物語」特有の作品世界を親しむ。
単元目標を達成するための手立て・工夫	恋愛をテーマにすることで、登場人物への共感を促し、作品に対する興味・関心を喚起する。 登場人物の心情の変化に着目した発問を行う。 グループワークにて、和歌を主体的に解釈させる。 和歌が心情・行動に及ぼす影響を考察させた上で、和歌の重要性を指摘する。

0-2. 本単元における本時の位置づけ（単元計画）

項目	時	授業目標・主たる学習活動・学習内容	備考
全文音読	1	目標：『伊勢物語』の文学的位置を理解した上で本文を読むことができる。 内容：『伊勢物語』や歌物語の文学的知識を身につける。 全文を音読する（歴史的仮名遣いや古文の音、リズムを体感する）。 登場人物を把握する。 全文を三つに場面分けする。	
第一部	2	【本時】 目標：登場人物に共感し、古文に興味・関心が持てる。 内容：第一部の本文を読解する。 男と女の関係性が幼馴染から結婚相手へと変化する様子を理解する。 男と女の和歌に込められた心情をグループワークで読み取る。	
第二部	3	目標：和歌には人の心情・行動に変化をもたらす力がある	

		<p>ことが理解できる。</p> <p>内容：第二部の本文を読解する。</p> <p>男が高安の女の元へ通うようになった理由を理解する。</p> <p>和歌に込められた妻の心情と、それを聞いた男の変化をグループワークで読み取る。</p>	
第三部	4	<p>目標：和歌が人々の心情と行動に与える影響を理解できる。</p> <p>内容：第三部の本文を読解する。</p> <p>高安の女の行動と、それを見た男の心情を読み取る。</p> <p>高安の女の和歌に込められた心情を読み取る。</p> <p>男が高安の女の元に通わなくなった理由をグループワークで考察する。</p> <p>歌物語の特徴を振り返る。</p>	

1. 授業目標：(一言で)

男女の成長と心の変化を読み取る。

2. 授業目標：(ある程度具体的に)

本時の範囲では「幼馴染との恋」という現代を生きる生徒が想像するに難くない情景が、古文特有のことばや音、そして二首の和歌によって描き出されている。

古語や和歌を味わいながら、男女が成長し、どのような心情を抱くに至ったかを読み取らせたい。そして、男女の心情に思いを馳せることで、生徒たちに「古文の世界と自分自身に共通点がある」と気付かせたい。自身との共通点は、学びに対する興味・関心の出発点となる。

3. 本教材のポイント：

高校古文は文法や古語、和歌の修辞を指導する必要がある。しかし、一方的な知識の提示や暗記を促す指導では、生徒のやる気を引き出すことはできない。まずは、古文に対する生徒の興味・関心を引き出す必要がある。

本教材では、登場人物の心情に注目した読解を心掛ける。「幼馴染」や「恋」は生徒にとって身近なテーマである。生徒が作品世界を自分自身に引き付けて読解することで、共感、ひいては古文に対する興味・関心が生まれる。古語の意味や和歌の解釈などは、教師が提示することなく、読解をしていく中で、生徒が自分で予想していくように誘導する。

4. 授業デザイン：

活動	内容	*：指導上の留意点
導入	<p>■前回の内容を復習しつつ、本時の導入を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の復習 ・宿題の確認 ・登場人物に関して分かっていることを列挙させる。 ・授業目標「男女の成長と心の変化を読み取る」を設定する。 	<p>*前時に『伊勢物語』の文学的位置づけを解説した上で、本文を通して音読し、登場人物を把握しておく。</p> <p>*古文に慣れること、授業では読解に集中することが必要なため、宿題で本時の範囲をノートに書き写させる。</p> <p>*男女が子どもから大人になったことを読み取らせ、心情の変化に注意を向ける。</p>
展開 ①	<p>■課題の検討①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが「井のもとに出でて遊びける」とはどういう意味か考える。 ・男の「この女をこそ得め」を現代語に置き換える。 ・女の「この男を」以下に省略された思いと、その後の行動を考えさせる。 ・二人の「本意」とは何だったのか考える。 	<p>*個人活動。「井戸端会議」の知識と関連させ、同じ生活圏で遊んでいた状況、つまり「幼馴染」であることを理解させる。</p> <p>*隣の生徒と話合わせた上で、何組かの現代語訳を発表させ、板書する。</p> <p>*前問と同一グループで再度話し合わせる。</p> <p>*個人活動</p> <p>*活動後「あふ」「で」「本意」に関しては、板書を行い古語及び文法の知識を定着させる。</p>
展開 ②	<p>■課題の検討②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男女の和歌は何を伝えているのか。現代語に置き換え、男女はそれぞれどのような思いを抱いているか考える。 	<p>*個人活動→グループ活動。何組かの現代語訳を発表させる。</p> <p>*和歌は読解が難解のため、参考となる絵を黒板に掲示する。また、机上巡回しながら適宜ヒントを出し、全グループが（現代語がうまく完成しなくても）プロポーズの相聞歌であることには気付けるようにする。生徒の現代語訳の良い点を抽出した上で現代語の模範解答にたどり着くようにコントロールする。</p> <p>*活動後、髪上げの儀や相聞歌の知識を提示する（国語便覧の図解を参照させる）。</p>

ま と め	<p>■本時の学習内容のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習を振り返る ・次時への見通しをもつ 	<ul style="list-style-type: none"> *改めて男女が幼馴染から夫婦になったこと、和歌でプロポーズをしたことを確認する。 *重要な単語、文法は再度知識として提示する。 *次時の範囲と宿題を板書する。 *古文の登場人物には我々との共通点があることを強調する。
-------------	--	---

5. 作成者から一言：

生徒の興味・関心を引き出すために楽しい雰囲気を心掛けつつも、雑談に終始しないようにコントロールすること。また、恋愛をテーマにした作品では性的多様性に配慮し、発言には十分に留意する。

6. 参考文献：

住吉如慶『伊勢物語絵巻』巻第2